第５期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会
分科会１「多様な世代や人々がつながり地域活動に参画し活躍できる地域づくり」
第２回　次第

日　時　　令和４年９月 21 日（木）15:00～
場　所　　横浜市庁舎 18 階　みなと４・５

開　　会

【資料１】

議　　事

１　第１回ふりかえり　【資料２】

２　意見交換　【資料３・４】

（１）多様な世代や様々な人々が、身近な地域の中で活動に参加し、つながっていくために
必要な考え方、進める上での課題、支援機関に期待することとは

（２）地域のつながりを活かして、地域の福祉保健活動へと広げていくために
必要な考え方、進める上での課題、支援機関に期待することとは

３　まとめ

事務連絡

【今後の予定】

〇第２回横浜市地域福祉保健計画・横浜市地域福祉活動計画検討会
令和４年 11 月 15 日（火）午前 10 時から正午まで
場所：横浜市健康福祉総合センター8 階　大会議室 A・B

〇第２回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会
令和５年２月中旬頃　詳細未定

閉　　会

資料1

横浜市地域福祉保健計画　策定･推進委員会　分科会1　委員名簿

（五十音順　敬称略）

	氏名	所属	分野
1	生田（イクタ）　純也（ジュンヤ）	横浜市社会福祉協議会 高齢福祉部会 地域ケアプラザ分科会 会長 横浜市踊場地域ケアプラザ 所長	地域ケアプラザ
2	内田（ウチダ）　元久（モトヒサ）	横浜市身体障害者団体連合会 副理事長	障害分野関係者
3	内海（ウツミ）　宏（ヒロシ）	株式会社 地域計画研究所 所長	地域まちづくり関係者
4	宇野（ウノ）　雅紀（マサキ）	市民公募委員	市民委員
5	佐伯（サエキ）　美華（ミカ）	幸ケ谷小学校 学校・地域コーディネーター （地域学校協働活動推進員）	学校・地域連携関係者
6	佐藤（サトウ）　潮（ウシオ）	横浜市町内会連合会　幹事	自治会町内会関係
7	塩田（シオダ）　良英（ヨシヒデ）	港南区シルバークラブ連合会 会長	高齢分野関係者
8	名和田（ナワタ）　是彦（ヨシヒコ）	法政大学法学部 教授	学識経験者 （コミュニティ）
9	福本（フクモト）　雅美（マサミ）	戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽 施設長	子育て分野関係者
10	山野上（ヤマノウエ）　啓子（ケイコ）	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 監事	ＮＰＯ・市民活動団体等 中間支援組織

オブザーバー

1	柿沼　千尋	健康福祉局　地域福祉保健部　地域支援課長
2	鴨野　寿美夫	健康福祉局　高齢健康福祉部　地域包括ケア推進課長
3	小河内　協子	市民局　地域支援部　地域活動推進課長

第１回 ふりかえり

資料2-1

（1） 地域の課題を解決するための団体・組織の連携協働について（第１回分科会まとめ）

<table>
<tr><th>カテゴリー</th><th>委員意見</th><th>第１回分科会のまとめ</th></tr>
<tr><td>① 他団体や機関と連携・協働する場、きっかけ、意識が必要</td><td>・他の機関との連携についての悩みが多い。気軽に相談できる場が大切
・企業経営と社会貢献活動がまわる仕組みができ始めているのが最近の特徴
・各区の子育て拠点が区地福計画とどう連動して取り組んでいけるかが大切
・連携協働の際には課題解決のゴールの共通認識が大切
・市民協働推進センターのようなつなぎ役として気軽に相談できる場も大事
・多種多様な活動をこちらがまず理解し、色々なところと絡めたいのであれば、一緒に参加しませんかとつなげていく

〔様々な取組・実践〕
・小学校・中学校との連携（スローガンや旗づくり、挨拶運動、学校清掃、防災）
・子育て団体の相談に子育て支援拠点・区役所・区社協でワークショップ
・ケアプラザ、区社協、民生委員、保育園、学校・地域コーディネーターで
子どもの遊び場や危険な場所の地図など「幸ケ谷子ども育みフォーラム」</td><td rowspan="3">・連携・協働していくための様々な取組や実践があるが、課題解決のためには、ゴールの共通認識など意識することが必要。

・他分野とつながることで、新しい関わりや理解が広がっているので、継続していくことが重要。

・障害の特性やコミュニケーション手法の違いがあるので、参加やつながり方の工夫や意識が必要。

・対象エリアなど、組織や団体ごとの違いをふまえ、連携・協働を進めていくことが必要。</td></tr>
<tr><td>② 知り合う・つながる・伝える機会が必要</td><td>・子育て拠点がケアプラザを知る、子育て拠点を地域に知ってもらう事が大切
・精神障害者と聴覚障害者との手話を通した関わりが以前より深まっている
・障害者と町内会の関わりをどう作っていくか。自分（障害者側）から積極的に町内会の人に話しかける必要がある
・区長に相談し、聴覚障害者が手話通訳者と共に地域の防災訓練に参加
・フードバンクや専門学校とつながり自分たちではできないことに取り組んでいる
・子育て拠点の強みや、つながることで WIN-WIN となることを地域に伝える</td></tr>
<tr><td>③ 連携・協働における課題への取組が必要</td><td>・連合町内会やケアプラザ、学校などでエリアが異なるため連携が難しいことがある
・障害によりコミュニケーションが難しく地域とどうつながるかが課題
・障害者はコミュニケーションの課題や遠慮もあり防災訓練に参加しづらい</td></tr>
</table>

（2）　**参加・参画・裾野の広がりなどについて（第２回分科会の意見交換に向けて）**

資料2-2

<table>
<tr><th>カテゴリー</th><th>委員意見</th><th>第２回分科会に向けて（事務局整理）</th></tr>
<tr><td>① 地域でつながるきっかけとなる自分の興味や関心にあった多様な活動の選択肢が必要</td><td>・男性向け野外サロン、仲間意識も生まれ、自治会長や青少年指導員になった方もいる
・里山保全団体が福祉の担い手になるということが実際に起きている
・市民の森団体が庭木剪定を頼まれ高齢者の生活支援を実施
・興味・関心や、既に取り組んでいることから自然と福祉につなげられたら
・やらされ感でなく、地域福祉の担い手になってもらうには を考える必要がある
・様々な切り口・入り口から地域福祉の連携につながっていくことが大切
・様々な活動があることが地域の方の多様な選択肢になる。
・地域に関わる意識を持ってもらうようなアプローチが必要
・畑をやっているサークルの人たちがケアプラザの庭を管理してくれた
・よこはま地域づくり大学校（定年後の方等が地域活動を見て回る取組）
・テニスサークルや麻雀仲間が空いている時間に移動支援の活動
・コロナでクラスに知り合いが少ない保護者が花火大会の後に話している姿
・おやじの会が地域のお祭りに参加、</td><td rowspan="5">地域の中でつながることで、その中でお互いを気にかけあう関係が生まれる。また、一人では躊躇してしまうような新たな取組にも仲間とともに参加しやすくなる。従って、<u>地域の中でいかにつながるか、</u>その<u>きっかけ</u>が地域のなかにあることが重要。

市民参加を進めるうえでは、<u>子どもの頃から</u>様々な人と自然につながることや、支えあいの活動を経験していることが大切になる。
学校への期待は大きいが、<u>学校と施設、地域などが連携</u>し、一緒に考え取り組むことで、<u>各地域ならではのつながり</u>へと広がっていくことが重要。

地域には、活動やつながりに関心がある人もない人もいるが、例えば、「日常生活の中で無理なく行える活動であれば協力したい」「自分なりの特技や経験が生かしたい」といった、それぞれの<u>「自分に合った活動」</u>や<u>「参加する理由」が</u>あることが必要。

<u>世代や状況などをふまえ、</u>想いや暮らし方に配慮したきっかけづくりを行うとともに、できることから積み重ねることで様々な人が参加し、つながりができることが大切。</td></tr>
<tr><td>② 子どものころから地域とつながるきっかけづくりが必要</td><td>・生徒にスローガン依頼、小学生の地域清掃、
・学校で防災の話、防災拠点への子どもの参加、
・教育現場で取り組んでいくことが良いのではないか
・学校で手話を教えると子どもは関心を持ってくれる</td></tr>
<tr><td>③ 個人の生活や状況にあった地域活動へ参加する理由や、居場所や出番をつくることが必要</td><td>・うどん打ちをデイで実施したら、経験者が車いすから立ち上がり皆が驚いていた
・地域で役に立ちたい若い世代もいる（子育てサポートシステム活動者等）
・30 代が多い子育て拠点利用者をうまくつないで役割を持って暮らせて行けたら
・参加する理由・しない理由の分析し参加する理由を作ってあげることが大事
・お茶屋だった祖父はデイでお茶を教えるときは自分が役に立ち楽しかったと
・4期市計画でもその人の居場所と出番の話があげられていた
・ヨコハマプロボノ事業（社会人経験を地域に活かす事業）のような形での人材活用もますます重要になる
・住民アンケートを実施「役員は嫌だが応援ならいくらでもする」地域の人が考えていることが分かって、まちづくりに成果を期待できる感じを受けた</td></tr>
<tr><td>④ 小さなことでもできることから取り組むことが必要</td><td>・手助けしてあげ隊、シルバークラブの日常生活の中で支え合う取組
・小さなことでもできることから取り組み、積み重ねる
・向こう三軒両隣に変わりがあったら地域活動者につなげる取組
・昔からの手話サークルがつながりに
・シルバークラブ会員以外も含めて声をかける</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
</table>

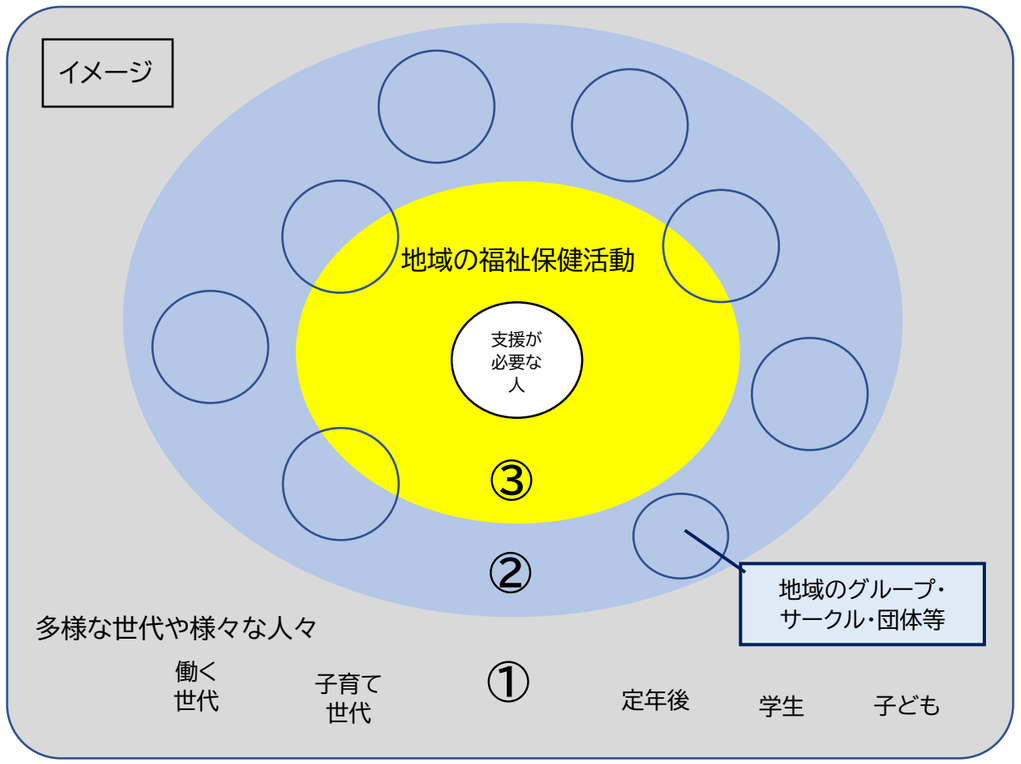
分科会1第1回資料より

資料3

「多様な世代や人々がつながり地域活動に参画し活躍できる地域づくり」に向けた現状と課題

	第4期市計画策定時の現状・課題 第4期市計画の内容	中間評価	社会情勢等
現状課題	・少子高齢化、世帯小規模化により担い手減少 ・地域福祉保健活動のすそ野を広げる取組が必要 **・多様な世代や様々な状況にある人がつながり、地域活動の大切さを自然に意識できる働きかけが必要**	・開催方法の工夫、市民参加の裾野をさらに広げる必要がある ・コロナ禍で試行されたSNS活用等の工夫が今後も必要 **・一人ひとりの価値観に合わせて選択肢が具体的に示され、地域の活動につながるきっかけづくりが必要** ・地域組織を中心とした活動は自治会加入率の低下もあり参加者が減少 ・シルバークラブも参加者は減少	**「現在、参加している地域活動」について、「特にない」が約6割** **（令和元年度 市民意識調査）** **「何らかの形で、積極的に社会に役立つことをしたい」と考える人が57.4%** **（令和3年度　市民意識調査）** **支え手」「受け手」という関係を超えて、** **地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながる** **（厚生労働省　地域共生社会とは）** 市内認証NPO法人の推移は、平成18年から令和3年で1.8倍 （横浜市新たな中期計画の基本的方向） 「男性を引っ張り出すことに苦労」 「サロンや集いに来ない人をどうするかが課題」 （第4期市計画分科会意見）
内容	**［柱3-1　幅広い市民参加の促進］** ・子育て世代が地域と繋がるため、保育所等が地域と連携した取組の推進 ・地域住民がつながれる機会や誰もが集える情報の集約 ・利用者が担い手として関わるようになった事例の発信 ・ボランティア活動を通じた社会参加プログラムの検討と支援メニューの提案　　など		
現状課題	・社会福祉法人の地域貢献の期待の高まり ・法人・施設・事業の特徴を生かしニーズに合わせた取組を進めることが必要 ・第1期から施設企業等との連携・協働が推進されており、交流、イベント等は多くで取り組まれている ・連携による見守りネットワークの構築や食支援が取り組まれるようになっている ・連携協働の広がりを見せる一方で継続性・一貫性が課題となっている地域もある ・今後もそれぞれの役割や特徴を生かしながら、連携協働した取組を一層進めることが必要	・地域と社会福祉法人の連携がイベントから生活支援につながる取組に広がっている ・コロナ禍に会場貸出やイベント開催が難しい状況が生じている ・社会福祉法人の貢献活動を更に進めるためにきめ細やかな支援が必要。 ・ニーズの的確な把握、関係づくりなど支援機関によるコーディネートが必要 ・地域も企業も相互に有効性を感じられる取組にすることが必要 ・地域と学校の関係性が継続する支援が必要 ・企業との連携が課題解決方法の一つとなるよう、事例共有等の対応が必要	
内容	**［柱3-2　多様な主体の連携・協働による地域づくり］** ・地域と連携協働するメリット周知 ・地域ニーズを把握するデータの提供、取組事例紹介等を通じた支援 ・社会福祉法人が取り組む地域貢献活動の発表会や事例集の作成 ・区社協と連携した地域とのコーディネート ・事例の集約と発信　など		
現状課題	・担い手の負担増・財源・取組内容の停滞により継続が難しくなっている活動も少なくない ・先駆的事例は、ニーズに基づき、それぞれの特徴が生かされていることが重要な要素となっている ・必要としている団体等に、こうした先駆的事例や財源確保のノウハウ等の支援策の提供が必要	・活動立ち上げや継続の支援は引き続き必要 ・様々な参加団体がつながる機会や場を増やすことが必要 ・課題を共有する仕組みづくりやICT環境の活用に向けた支援が必要 ・資金確保の仕組みづくりも課題	
内容	**［柱3-3　幅広い市民参加、多様な主体の連携・協働を促進するための環境づくり］** ・団体に必要な資金確保の手法、ノウハウ、支援策の提供 ・他団体や企業との連携協働による課題解決策の提案 ・地域づくりを協働する事例集約やノウハウの集約　など		

資料4-1



資料4-2

Q1　多様な世代や様々な人々が、身近な地域の中で活動に参加し、つながる地域となるには、働く世代、子育て世代、定年後の世代、学生、子どもなど、それぞれの思いを受け止め、一緒に取り組む地域づくりが必要となります。前回の意見（資料1－2）も参照の上

<u>多様な世代や様々な人々が、身近な地域の中で活動に参加し、つながっていくために必要な考え方、進める上での課題、支援機関に期待すること</u>　とは

（資料3-1　①→②　①→③のイメージ）

Q2　支えあう地域づくりに向けては、地域の福祉保健活動に関心を持ち、様々な形で携わっていくことが必要となります。

<u>地域のつながりを活かして、地域の福祉保健活動へと広げていくために必要な考え方、進める上での課題、支援機関に期待すること</u>　とは

（資料3-1　②→③のイメージ）

参 考

出典：厚生労働省「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」最終とりまとめ
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000213332_00020.html